

ラベルニュース

No362

平成 26 年 7 月号

東京都ラベル印刷協同組合

編集:広報・情報システム委員会

☎111-0051 東京都台東区蔵前 4-16-4

TEL(3866)4561 FAX(5821)6443

今年も恒例の組合研修旅行が

埼玉・小川村で伝統の和紙の紙すきを体験

観光コースでは世界遺産の富岡製糸場を

組合恒例の研修旅行は、六月十四日、十五日の二日間組合員、協賛会が参加して今年も開催されました。今回は我々が日頃慣れ親しんでいる紙について勉強しようとして、埼玉県比企郡小川町にある「紙すきの村久保昌太郎和紙工房」で、和紙の紙すきを体験、翌日はいつも通り、「観光コースとゴルフコースに分かれて大いに懇親を深めました。」



埼玉県小川村の紙すきの村で和紙の紙すきを全員で体験



第102回ラベル会は4組で開催、優勝はサンワコーケンの町田さん

六月十四日(土)午前九時半に、一行はバスにて研修先の埼玉県比企郡小川村にある「紙すきの里 久保昌太郎和紙工房」に向かいました。

六月十四日(土)午前九時半に、一行はバスにて研修先の埼玉県比企郡小川村にある「紙すきの里 久保昌太郎和紙工房」に向かいました。紙すきを体験したのは全員が初めてでしたが、実際にやってみると思った以上に大変な作業でしたが、なかなか普段では体験できないだけに、全員が終了するまではかなりの時間を要しました。最後にはそれぞれが自分のすいた紙を持ち帰ることが出来、大変なためになった、来てよかったという声を聞くことが出来ました。

昼食後、宿泊先の群馬県磯部温泉「すずめのお宿」に向かい、車内ではすでに宴会ムードで大騒ぎ、午後二時過ぎに現地に到着、早速温泉に浸かる人、さらに飲み続ける人と様々。午後六時から懇親会が開かれ、野尻公益福利厚生委員長の司会で、平山理事が「業界は厳しい状況が続いていますが、今日は貴重な紙すきを体験し、有意義な研修が出来ました。毎年協賛会との研修旅行は、懇親を深めるうえで大変有意義だと思っています。明

日はゴルフと観光で、大いに英気を養っていたのだと思います」と挨拶しました。

続いて協賛会を代表して恩田製作所の恩田博社長の音頭で全員が乾杯、昼は埼玉県小川村の伝統工芸と、夜は磯部温泉の伝統芸能輪心ゆくまで堪能しました。

翌日はゴルフ組はローズ米カントリークラブに於いて、五組・十五名で第一〇二回ラベル会が開催され、十八ホール、ストロークプレーの結果、サンワコーケンの町田一仁氏が、イン四六アウト四四、ハンディ二〇、ネット七〇で見事優勝しました。

また、観光コースは、六日後に世界遺産登録決定を待つ富岡製糸場と妙義神社などを見学、二日間とも梅雨に入ったとは思えない好天に恵まれ、午後四時半にゴルフ組と合流し、途中渋滞に遭いながらも、午後八時前に無事上野駅前に到着しました。組合員の方、協賛会の方、本当にお疲れ様でした。

日本印刷産業連合会

新会長に稲木歳明(共同印刷)を

創立三十周年 グランドデザイン策定

日本印刷産業連合会は、六月十一日開催の第二十九回定時総会に於いて、任期満了に役員改選で、新会長に稲木歳明氏(共同印刷会代表取締役会長)を選出しました。

承認された平成二十六年事業計画では、設立三十周年を迎える今後の日印産連の活動形態を再検討するためのグランドデザインの策定を進め、次世代への体制整備を進めていくことや、平成二十七年の創立三十周年事業の一環として年始編纂および印刷用語集の改訂を実施するとともに、主催コンクールの大幅な見直し

を、三十周年に向けた広報活動の見直しを図っていくことも決定された。

稲木新会長は「足立前会長は有機溶剤の健康被害や知的財産への対応、さらに公益法人改革などの取組みなど、印刷業界が抱える課題に積極的に取り組まれてきた。こうしたことを踏襲しながら、新年度の方針にのっとり、印刷業界が抱える課題に対し、微力ではあるが、誠心誠意会長職を務めていきたい。これまで以上に傘下十団体をはじめ、関連団体とともに密接な連携を図り、活力ある連合会として、一層の発展に努力していきたい」と挨拶した。

新役員は次の通り。

■会長・稲木歳明(印刷工業会) ■副会長・浅野健(印刷工業会)、島村博之(全印工連)、櫻井鬼(日本フォー

消費善転嫁対策窓口

東京中央会が開設

東京都中小企業団体中央会では、四月からの消費税の引き上げに対して、取引先がなかなか認めてくれないなどといった問題に対して「消費税転嫁対策窓口」を設置して相談に応じます。

都内中小企業を対象に昨年度に引き続き、講習会の開催、相談窓口の設置、専門家の派遣、転嫁・表示か

るる組成等支援事業を実施することになっています。消費税は来年には一〇%への引き上げも予想され、中小企業にとっては転嫁が大きな問題になっており、

特に消費善転嫁対策に精通した専門家(税理士、公認会計士、中小企業診断士)を相談員にし、今年七月から来年の三月まで計二十四回の相談窓口を開設します。

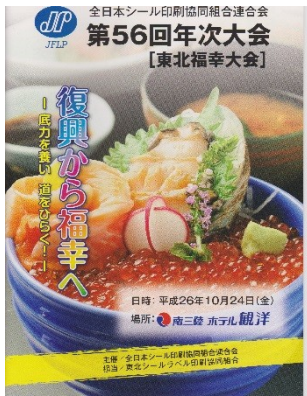
日程の詳細については、東京都中小企業団体中央会のホームページでご確認ください。

<http://www.tokyochuokai.or.jp/>

男(専従)



稲木歳明会長



第56回年次大会・東北福幸大会

一人でも多くの参加で成功を!

底力を養い、道をひらく

三年前の東日本大震災から復興した東北を全国の組布委員に見てもらいたいと、東北の組員が一丸となって準備をしています。

代別) 一名・一万円
シャトルバス・往路2便(語り部付) 一名・二五〇〇円
復路・3便 一名・二〇〇〇円。

社、シールが二社(宣広プロ)、グラビアが二社で、六月十三日が認定日になっており、三年後の平成二十九年六月三十日が有効期限となつていきます。

このため今回のテーマも「復興から福幸へ 底力を養い、道をひらく」とし、厳しい環境の中でもなお頑張る「東北人の底力」を一人一人が感じ色んな「道をひらく」ための「底力」を養うキツカケにしたいと思っています。

今回は会場までのアクセスが悪いため、仙台駅より往復の送迎バスが用意されていますが、いずれも予約が必要ですので、申し込む際は必ず送迎バスの予約も忘れずにお願います。また、宿泊も旅館ですので一人部屋はありません。基本は四人部屋になるのでご注意ください。

グリーンプリンティング認定制度は、日印産連が認定機関となり、日印産連「各印刷サービスマーケット」に基づき、客観的証明により認定を行い、認定マーク(GPマーク)を表示できる制度で、環境に配慮した印刷の総合認定制度で、本制度は印刷形式によりオフセット、シール、グラビア、スクリーンの4部門に分かれています。

全日本シール印刷協同組合連合会(小宮山光男会長)主催の「第五十六回年次大会 東北福祉大会」は、十月二十四日(金)に、東北シールラベル印刷協同組合(渡邊正昭理事長)の担当で、宮城県南三陸町「ホテル観洋」で開催されます。

当日は午後二時半より受付開始、午後三時半より祈念式典、午後五時十五分より復興特別対談、午後六時半より懇親会となっております。第二十四回シールラベルコンテストの作品展示が午後二時半から午後八時まで行われています。

新たに十六社がGP認定工場に 宣広プロも

日本印刷産業連合会(稲木歳明会長)が認定しているグリーンプリンティング認定制度(略称・GP)は、このほど第三十二回グリーンプリンティング認定工場十社を発表しました。内訳はオフセットが十三

基本セット(式典・懇親会) 一名・一万八千円
同伴夫人・一万五千元
宿泊付は八千円割増。
翌日のエクスカーション
Aコース(復興視察応援ツアー) 一名・一万円
Bコース(懇親ゴルフ)

利府ゴルフクラブ プレイ

品認定制度があります。当組合では今回の宣広プロの認定で、弥生印刷、池田印刷、前田印刷所に次いで四社目となり根、七月一日現在で、全体では三二一工場となります。

「ご存知ですか？」

電気をどこからでも自由に契約できる「新電力」とは

■新電力とは

最近新聞やテレビのニュースなどで、「新電力」という言葉を聞いたことがありませんか。

新電力（PPS）とは、

既存の大手電力会社である一般電気事業者（現在、北海道電力、東北電力、東京電力、北陸電力、中部電力、関西電力、中国電力、四国電力、九州電力、沖縄電力など）とは別の、特定規模電気事業者（PPS: Power Producer and Supplier）のことで、「契約電力が50kW以上の需要家に対して、一般電気事業者が有する電線路を通じて電力供給を行う事業者（いわゆる小売自由化部門への新規参入者（PPS）」（資源エネルギー庁））となっておりません。

つまり、契約電力が50kW以上ならば、既存の東京電力や関西電力など以外の新しい電力発電会社と電

力契約を自由に取引交わす事ができるのです。現在、日本の電力は使用する電力契約の大きさによって自由化されているという事です。

■二年後には一般家庭も全面自由化目指す

一般家庭※のような小規模の電力契約ではまだですが、二〇〇〇年の改正電気事業法施行による電力自由化から段階を経て二〇〇

五年四月以降は、高圧50kW（高圧・六〇〇V）以上の契約ならば、新電力会社であるPPSと契約できるとい事になっていきます。（※一般家庭でも、マンション1棟などの契約の場合には契約電力により、現在でも新電力と契約できる場合があります。また、二〇一六年に一般家庭への電力の全面自由化をめざす電力システム改革が現在進められていきます）

■三年前の大震災以降クローズアップ

3・11の大震災以降、電力が不足し、この特定規模電気事業者である新電力会社がクローズアップされてきました。また、東京電力などの一般電気事業者の自由化部門の電力料金の値上げに伴い、この機会に新電力会社と契約を検討されている方も多いかも知れません。

二〇一四年四月十八日現在、届け出がある新電力会社（PPS・特定規模電気事業者）は二〇三社あります。また、これら新電力会社の提案や契約の代行をしてくれるPPS代理店もあります。

■PPSから新電力に名称変更

新電力PPSポータルサイトでは、特定規模電気事業者である新電力会社（PPS）や契約代理店に

関連する情報を提供してお

ります。（経済産業省は二〇一二年三月初旬にPPSという名称はわかりにくいという事でPPSという名称を「新電力」に名称変更する事を発表しております）

特定規模電気事業者である新電力会社（PPS）と契約するには、電力の自由契約ができる契約電力でなければなりません。

二〇〇五年以降では契約が特別高圧または高圧（50kW以上）となつて

いれば、既存の東京電力や関西電力などの一般電気事業者から新電力会社（PPS）に契約の切り替えができる事になります。下記表は新電力会社（PPS）に切り替えが出来る契約の一例です。電力会社により名称等がちよつと違う場合やこの表以外の契約があったりしますので詳細については各電力会社にお問い合わせ下さい。

参 考 資 料

<http://www-pps.hpmap.net/>

■バセドウ氏病とは

バセドウ氏病は、甲状腺ホルモンの過剰分泌が原因で全身にあらゆる症状が出ます。その過剰分泌が調整するには三つの治療方法が行われます。①薬物療法②アイソトープ治療③手術療法です。

No125 健康がいちばん!

甲状腺ホルモンの異常分泌原因

意外と多いバセドウ氏病

抗甲状腺薬は服薬初めに十分な量を使います。ホルモンの分泌を早く抑えたいからです。そして状態を見ながら少しずつ減らしていきます。一定量を飲み続けるとい方法をとります。このときになると現れていた症状もずいぶんよくなってきました。

しかし眼の症状は甲状腺の治療をしてもあまり期待ができません。薬を飲むのをやめて一年以上甲状腺機能が正常に保たれていた人が一五%近く居ます。また服薬中の四〇%くらいの人が日常生活を問題なく過ごされています。このように薬物治療は、期待できるものと言えるのではないのでしょうか？

ただし抗甲状腺の副作用として肝臓障害や湿疹（薬疹）顆粒球減少症、無顆粒球症などがあらわれることもありますので定期的に病院で受診されて注意される必要があります。

■症状とは

バセドウ氏病の症状は、甲状腺ホルモンが大量に作

られ血液中に沢山流れるので新陳代謝が活発となります。バセドウ病は女性が男性よりも5倍も多いそうです。甲状腺機能が活発になると全身の新陳代謝がいつも躍動してる感じになります。

バセドウ氏病の症状には3つの特徴があると言われています。

①首の腫れ②眼球突出（顔つきも眼球突出という目が出ている感じになる症状です。これは眼球を動かす筋肉や脂肪組織が腫れるためにおこる症状です。目つきも鋭くなってきました。③頻脈（動悸）

この3つをメルセブルグの三徴といいます。メルセブルグとは、バセドウ氏病の診療所があった地名だそうです。

首の腫れは、人によって違いがあり首前側の下側だけの人もしばしばあごの下から首の付け根あたりが腫れる人もいます。バセドウ氏病の場合は、甲状腺がそのままの形で全体にはれて左

右の差もほとんどありません。この腫れ方を瀰漫性甲

状腺腫と呼んでいます。

他の症状は暑がり、疲れやすい、体重が減少する、または体重増加、精神症状ではいつもイライラしてて落ち着きが無く集中力低下、不眠などです。

■診断とは

初診のときに症状がはっきり出ていれば問診と触診でほぼ診断がつきます。診断が付かなかったときは、詳しく検査が必要になります。甲状腺機能亢進症と診断がついた場合ほとんどはバセドウ氏病です。甲状腺の機能が亢進しているかどうかは血液検査でわかります。

バセドウ病と診断されるのはまず問診と触診、次に甲状腺の機能の遊離型甲状腺ホルモン（FT₄、FT₃）を調べる。抗体検査（TRAb）があるか否か調べればバセドウ病か他の甲状腺機能亢進症かの診断ができます。

《参考資料》

<http://basedow.seesaa.net/>

ここ日本では薬物療法が最も多いです。現在使われている抗甲状腺薬はメルカゾールとチウラジール、プロパジールの2種類が中心です。これらはヨードが甲状腺ホルモンの元（原料）になるのを抑える働きの薬です。

ミヤコシ(千葉県習志野市津田沼一の十三の五)は、ビジネスフォーム輪転機では、このほど理想のワークフローを追求したオフセットラベル印刷機「MLP Series」を発売しました。

オフセットラベル印刷機 MLP シリーズを

低損紙、高能率を実現した最新鋭機

理想のワークフローと豊富なオプション



を使用する小ロット、他品種のラベル業界に於いて最も大切な低損紙、高能率を実現したラベルプレスです。

①各印刷ユニットを自動で版交換位置に停止させるなど作業効率が向上し、多色機では、準備作業を分散してさらに効率を高めることが可能です。

②運転中に使われていないユニットで次ジョブの準備作業が行えます。高度の同期制御からノンストップでジョブの切替が追求可能です。

③高精度サーボモーターによる単独駆動方式で自由なサイズ変更が可能です。紙厚や加減速時にかかわらず安定した印刷見当精度を維持します。

テクノEシステムとは、初期設定、原点復帰、ピッチプリセット、プルローラ引き率などを自動制御し、オペレーション負担を大幅に軽減するシステムです。

同シリーズは、10A、13A、16A、13Cの各種あり、最大印刷速度は毎分200shot、(13Cは毎分220shot)。最大用紙幅と最大印刷幅は次の通り。

260mm	10A・260mm
330mm	13Aは、350mm
406.4mm	16Aは、420mm
330mm	13Cは、350mm

最大用紙巻径は、いずれも600mm

また、オプションとして印刷と同時にシール接着面に特殊ニスコーティングすることで任意の部分のみ糊を残す加工が一回の工程で可能になるインライン部分糊加工(糊殺し)ユニットもあり、また、ツイン凸版印刷方式により糊殺しと糊面印刷が同時に行えます。(アイキャッチ用POPシール等に応用できます。)